

京林大だより

No.26



絵：卒業生 熊走君

ドイツ研修に行ってきました

5月30日(月)～6月6日(月)の5泊8日の日程で、2年生はドイツ研修へ行きました。

- 現地での研修は、
- ①ドイツの林業分野の人材育成について学ぶ
 - ②大規模な製材所の見学
 - ③ドイツの森林の経営・管理を行う森林官からのレクチャー
 - ④林業機械作業現場の見学
 - ⑤黒い森野外博物館の見学の5つ。

ドイツの林業も日本の林業も、大戦や産業革命などで森林資源をたくさん使いすぎた歴史を持ちますが、現在の状況は大きく異なっています。日本では森林の手入れ不足が問題になりますが、ドイツでは『持続可能な林業経営』が成り立っ

ています。学生も様々な疑問が生まれたようで、たくさんの質問が飛び交いました。ドイツから、多くのことを学んだ研修となりました。



ドイツの高性能林業機械を見てきました。日本のものとの違いにびっくり！



ドイツの林業大学校『マッテンホフ校』を訪問しました。3年生が卒業試験前の最終確認を行っていました。



野外博物館には、ドイツ南西部の様々な場所の古民家が移築されています。ドイツの人の暮らしと森林との関わりを学ぶことが出来ました。



年間に10tトラックで11,000台分の丸太を加工している製材所。日本とのスケールの違いに驚きました。



フライブルク市の市有林を管理するフォレスターの方から、市民の方が気軽に訪れる森林をどのように管理するか、レクチャーをいただきました。

林政ニュース

東京オリンピックと木材利用

御存じのように、東京オリンピックの新国立競技場が、木材をたくさん使う設計プランになりました。

使われる木材は、森林認証を得た森林から調達されるスギやカラマツとなっています。

ところで森林認証という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。

森林認証は、適切な森林経営や持続可能な森林経営が行われている森林又は経営組織などを、独立した第三者期間が一定の基準等を基に認証するものです。

近年のオリンピックは環境への配慮が求められており、ロンドンでは国際的に認められた認証木材がほぼ100%使われたとされています。このため、東京でも新国立競技場以外の建物も認証木材が優先して使われるようになると考えられます。

しかし、残念ながら府内の認証森林は、京都府の森林面積のわずか3%の11,853 haに過ぎません。

京都府産木材がオリンピックで使われることを夢見て、積極的に森林認証をとってビジネスチャンスにしていく必要があると思います。

今月の授業参観

『林野庁長官特別講義』



講義に先立って、学生と一緒に特製シカ肉カレーを食べながら懇談。



「日本の森林・林業～林業の未来を担う皆さんへ」と題して講義をしていただきました。



校長室より

林野庁長官へ提言、そして..

校長 只木 良也

国民森林会議という団体があります。

1982年設立で、林野行政についての意見や提言を、農林水産省林野庁に提上することを主な任務とした全国組織の団体です。10年ほど前から私がその会長を務めておりますが、平成27年度にまとめた提言書を、6月1日、林野行政のトップである今井林野庁長官に手渡してきました。

主テーマは最近目立つ「荒い間伐」批判。拡大造林政策で増加した人工林の間伐等の手入れ不足がよく指摘されますが、間伐推進のために、伐倒木を搬出しなくても認められてきた間伐補助金が、間伐材搬出量に

基づくものと制度が変わったことなどのために、本来、その森林の将来のために行うべき間伐の本質を抜きにして、間伐量の拡大だけを促がしているのが現実です。こうしたことは、かつて大非難を浴びた短伐期・大面積皆伐につながる危険性大です。

相互の意見交換、長官もすでにお気づきのことでもあり、国民森林会議提言書を充分参考にして対処と、約束して下さいました。

この今井長官、半月を経て、6月17-18日、昨年に引き続いて京都林大にお出でになりました。林大学生相手に『日本の森林・林業～林業の未来を担う皆さんへ』と題する講義で、現状の解説と学生諸君の奮起を促すのみならず、シカ肉カレーライスを共にしながらの学生との対話集会まで付き合っていました。林野庁長官というトップとのフリーな対話。「よかった」、「励みになった」というのが多くの学生諸君の感想でした。